

2026 年 3 月期第 2 四半期（中間期） 決算説明資料

2025年11月26日

アイホン株式会社

(6718)

本日の内容

01

2026年3月期 第2四半期（中間期）

決算ハイライト

02

2026年3月期

業績の見通し

03

AIPHONE Vision 2025

第8次中期経営計画の進捗状況

本日の内容

01 2026年3月期 第2四半期（中間期） 決算ハイライト

02 2026年3月期 業績の見通し

03 AIPHONE Vision 2025 第8次中期経営計画の進捗状況

為替変動

- 円安基調は変わらず
- 円安の影響により、海外からの輸入（仕入）コストが高止まり

市場動向

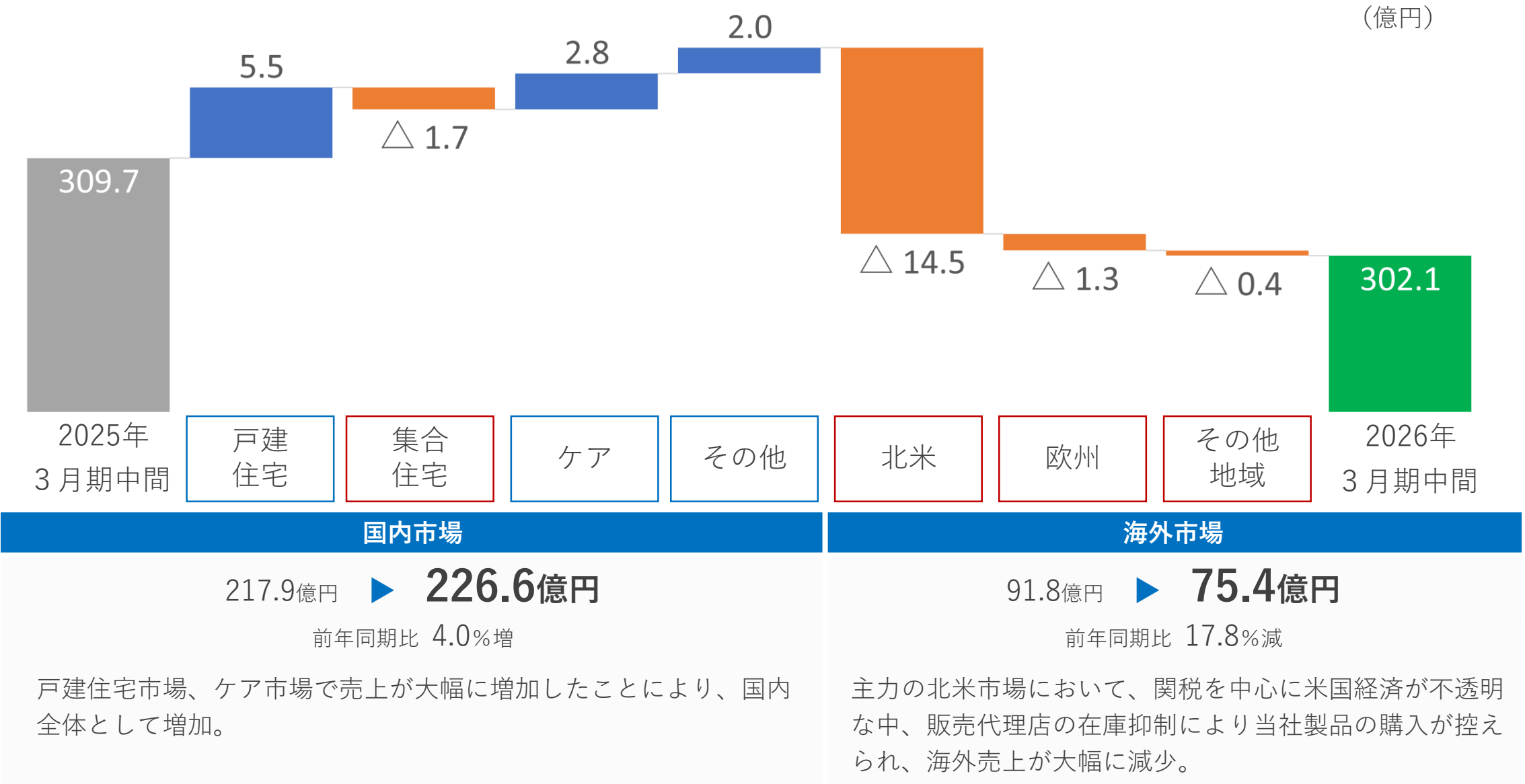
- 国内戸建住宅市場は依然として防犯意識が高い状態が継続
- 国内集合住宅市場のリニューアル需要は高水準を維持
- 北米市場は関税を中心に経済の先行きが不透明
- 欧州市場は経済活動が停滞し、景気は減速
- アジア・オセアニア圏は中国の不動産市況の不安定化を機に集合住宅市場が継続的に低迷

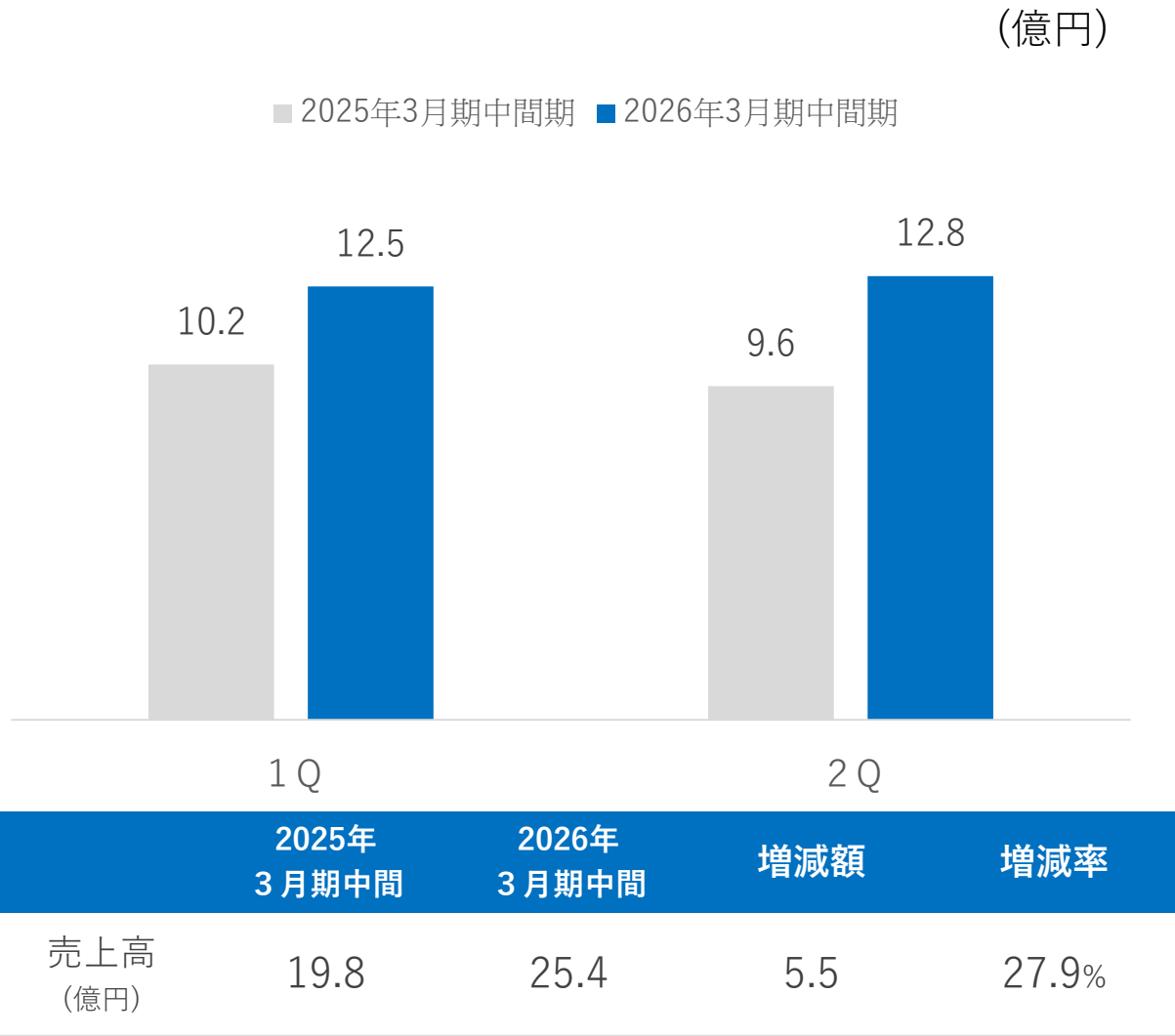
売上高 国内市場は戸建市場やケア市場を中心に売上が増加したものの、海外市場は北米売上が大幅に減少し、連結での売上高は減少。

利 益 減収による減益に加え、相対的に利益率の高い海外市場の売上構成比率が減少したことによるセールスマックスの悪化や開発費や人的投資等の経費の増加により、各利益ともに前年同期比大幅減益。

(億円)		‘25/ 3 期中間期 実績	‘26/ 3 期中間期 計画	‘26/ 3 期中間期 実績	前年同期比 増減率	計画比 増減率
売上高		309.7	304.0	302.1	▲2.5%	▲0.6%
営業利益 (売上高営業利益率)		21.1 (6.8%)	11.0 (3.6%)	8.9 (3.0%)	▲57.9%	▲18.9%
経常利益		20.7	13.0	9.6	▲53.5%	▲26.0%
親会社株主に帰属する 中間純利益		16.9	9.0	8.5	▲49.5%	▲4.9%
為替レート (円)	USD	152.62	148.00	146.04	USD：アメリカ合衆国ドル EUR：ユーロ THB：タイバーツ	
	EUR	165.93	162.00	168.06		
	THB	4.27	4.30	4.47		

(億円)





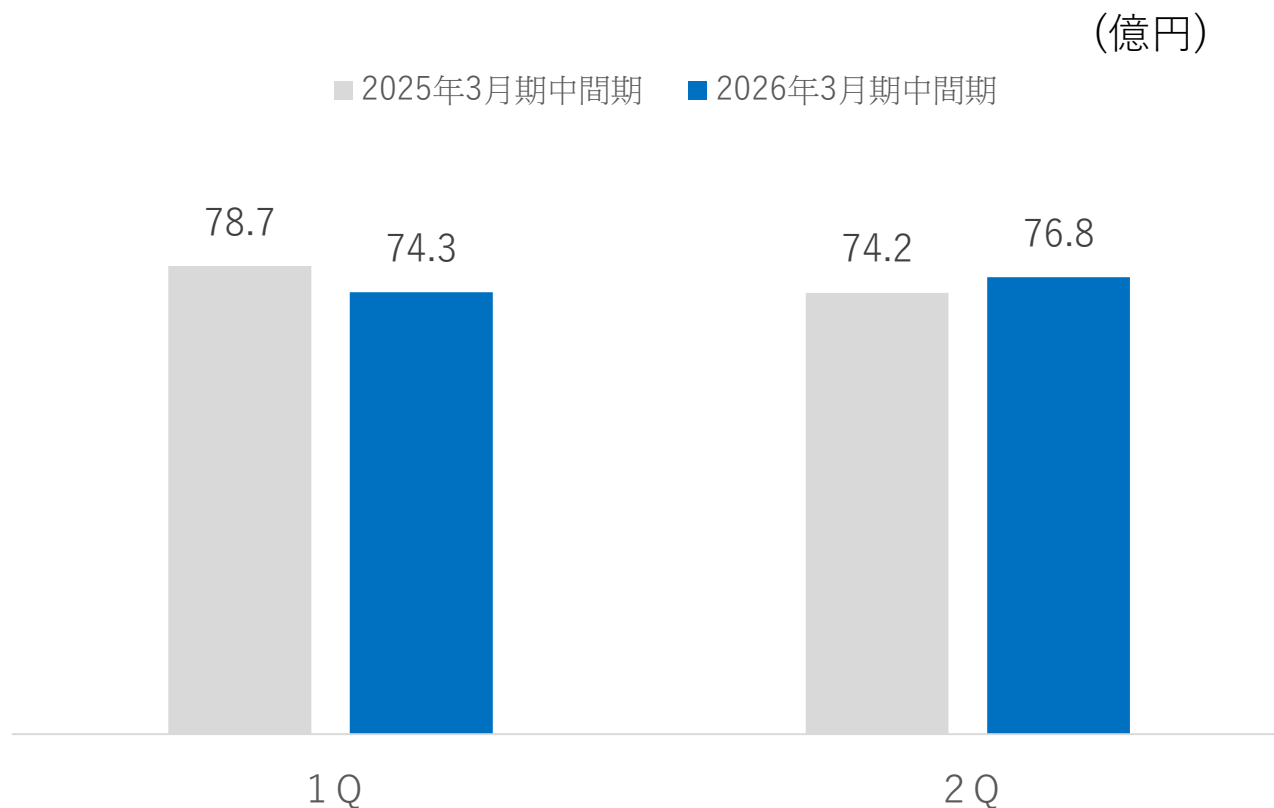
前年同期比

新築 **27.6%増**

- ◎主力商品の価格改定に伴う駆け込み需要。
- ◎他社採用先への積極的な受注活動の奏功。

リニューアル **28.9%増**

- ◎防犯意識の高まりを背景としたリニューアル売上の増加。
- ◎主力商品の価格改定に伴う駆け込み需要。



	2025年 3 月期中間	2026年 3 月期中間	増減額	増減率
売上高 (億円)	152.9	151.2	▲1.7	▲1.2%

前年同期比

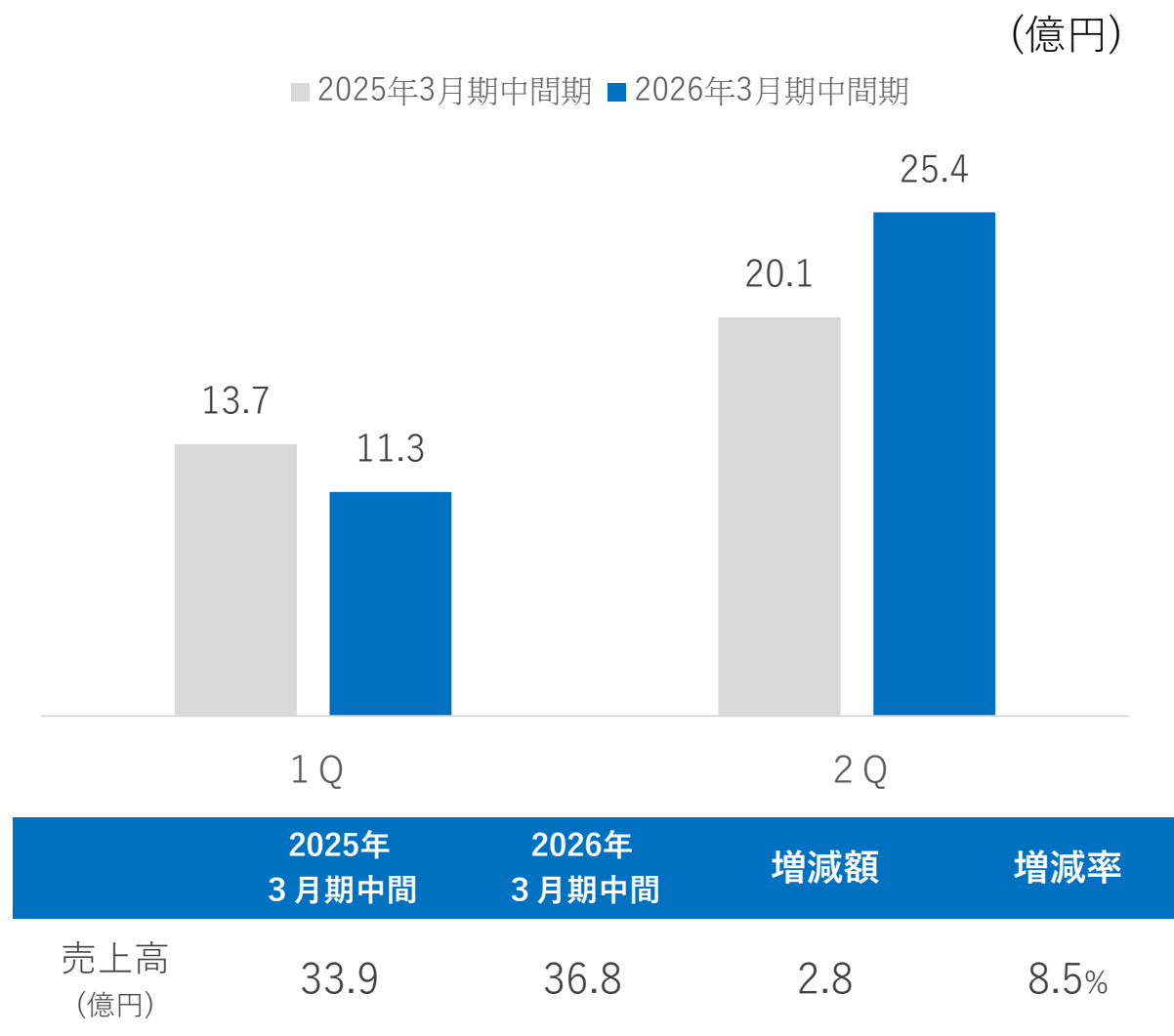
新築 **2.5%増**

◎ Pabbit提案により、賃貸マンション向け商品『PATMO α』の販売が好調に推移。

リニューアル **2.8%減**

△ 一部商品に供給遅延が発生。

△ 前年の価格改定に伴う駆け込み需要による一時的売上増加の反動減。



前年同期比

新築 **2.7%減**

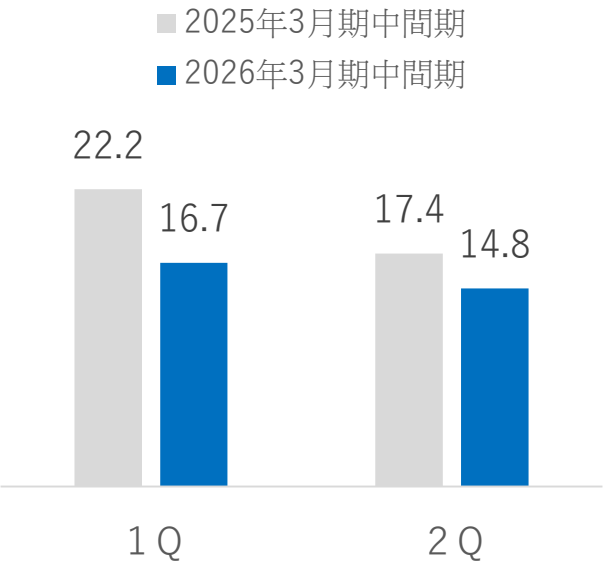
△新築着工数の減少。

リニューアル **13.7%増**

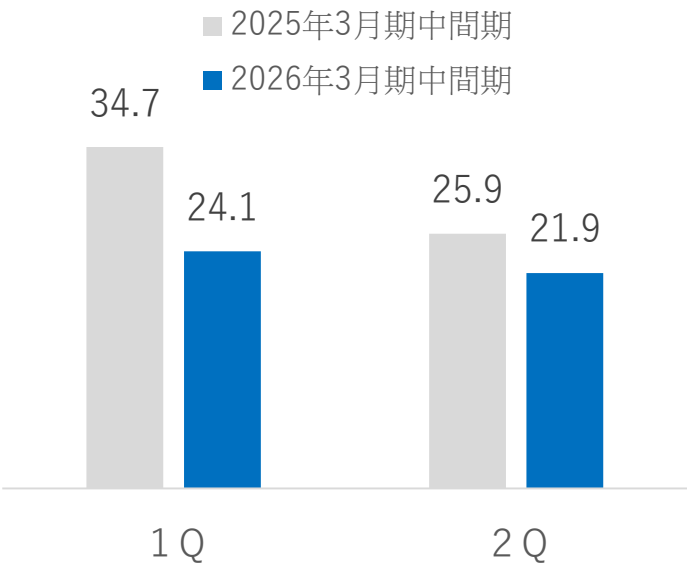
◎ 病院、施設等で「見守り支援」ニーズが高水準を維持。

○ 補助金活用事例が継続。

現地通貨（百万USD^{*}）



円貨（億円）



	2025年 3 月期中間	2026年 3 月期中間	増減額	増減率
現地通貨 (百万USD [*])	39.7	31.6	▲8.1	▲20.5%
円 貨 (億円)	60.7	46.1	▲14.5	▲24.0%

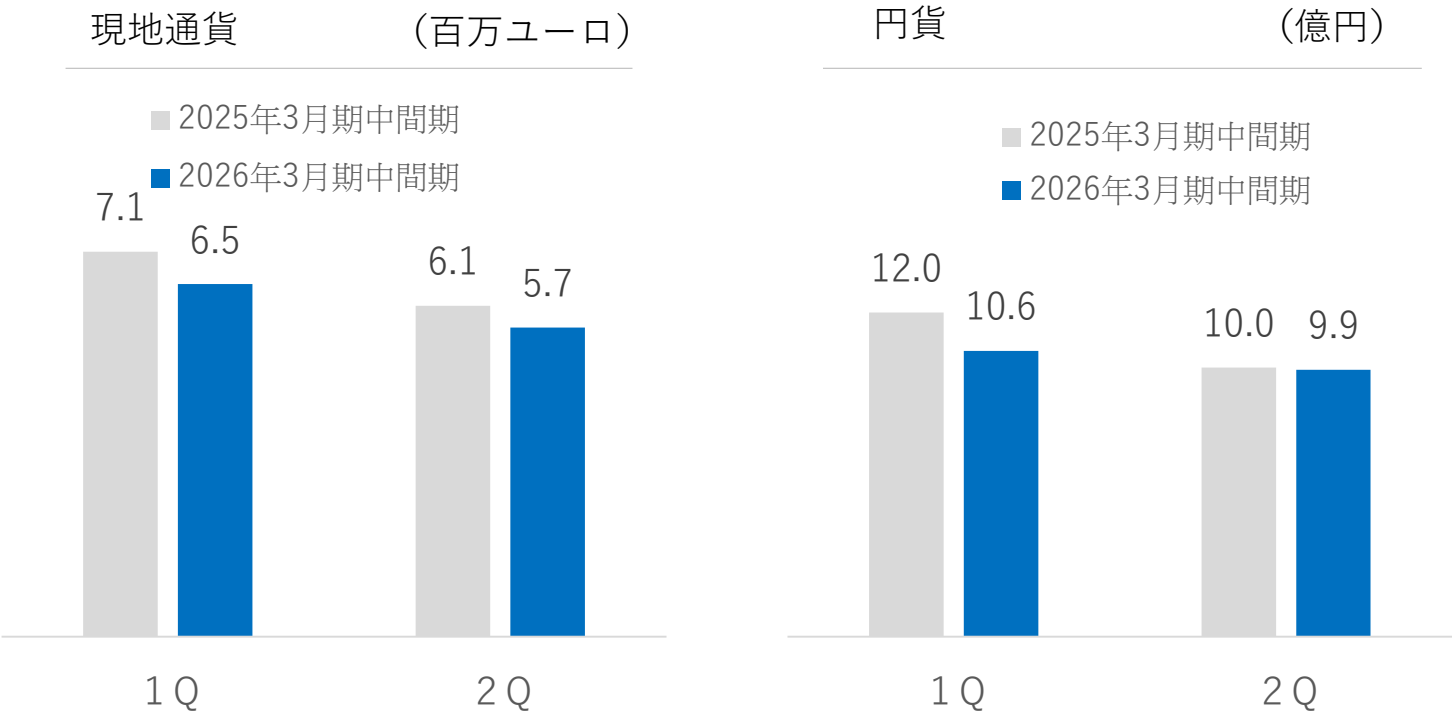
前年同期比

現地通貨 20.5%減

円貨 24.0%減

△関税を中心に米国経済が不透明な中での、販売代理店の在庫抑制。

△前期のバックオーダー解消による売上増加に対する反動減。



	2025年 3 月期中間	2026年 3 月期中間	増減額	増減率
現地通貨 (百万ユーロ)	13.2	12.2	▲0.9	▲7.5%
円 貨 (億円)	22.0	20.6	▲1.3	▲6.3%

前年同期比

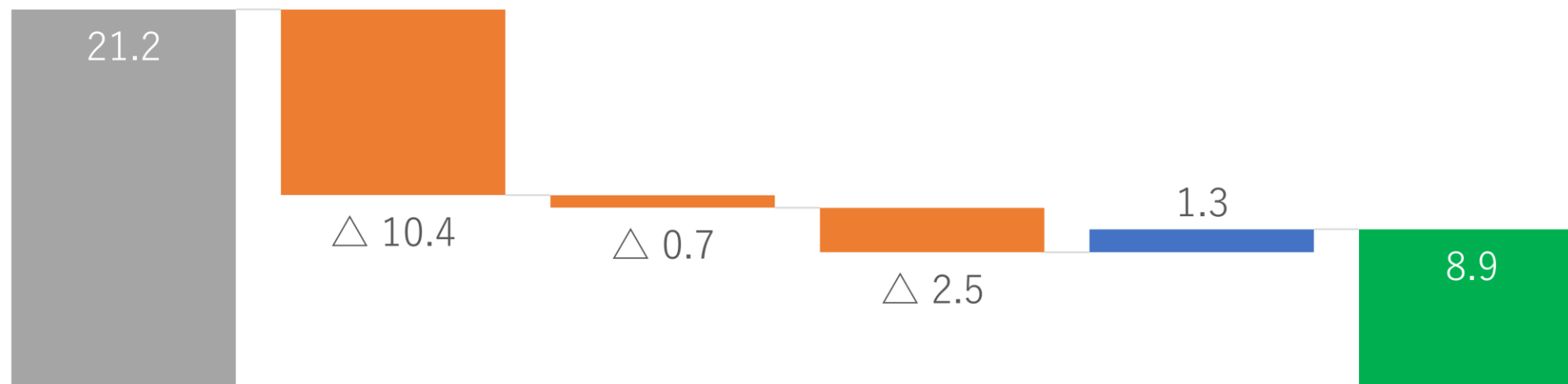
現地通貨7.5%減

円貨6.3%減

△欧州経済の停滞。

△欧州や中国企業との価格競争激化。

(億円)



2025年
3月期中間

売上減少
(セールスミックス悪化)

為替

経費増加
(為替除く)

その他

2026年
3月期中間

- ▲相対的に利益率の高い海外市場の売上構成比率減少によるセールスミックスの悪化。
- ▲開発費や人的投資等の経費が増加。

本日の内容

01

2026年3月期 第2四半期（中間期）

決算ハイライト

02

2026年3月期

業績の見通し

03

AIPHONE Vision 2025

第8次中期経営計画の進捗状況

当初計画を据え置き

(億円)	2025年 3 月期 実績	2026年 3 月期 計画	前期比 増減率
売上高	633.1	654.0	3.3%
営業利益 (売上高営業利益率)	38.1 (6.0%)	45.0 (6.9%)	18.0%
経常利益	41.6	50.0	20.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	36.1	37.0	2.2%
為替レート (円)	USD	152.57	148.00
	EUR	163.74	162.00
	THB	4.38	4.30

USD：アメリカ合衆国ドル、EUR：ユーロ、THB：タイバーツ

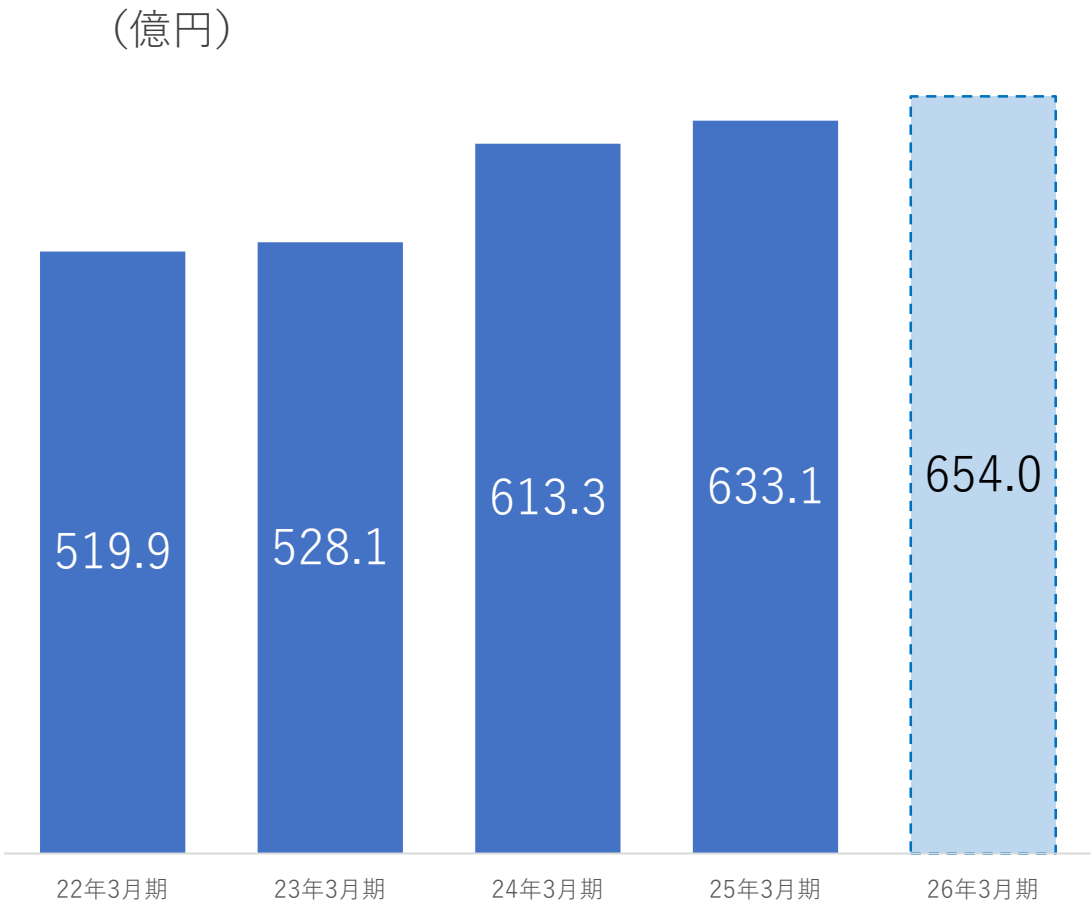
売上高

- ◎ 相対的に利益率の高い国内リ
ニューアル売上の更なる獲得。
- ◎ 販売価格の見直しの効果が下
半期中盤から本格化してくると
予想。

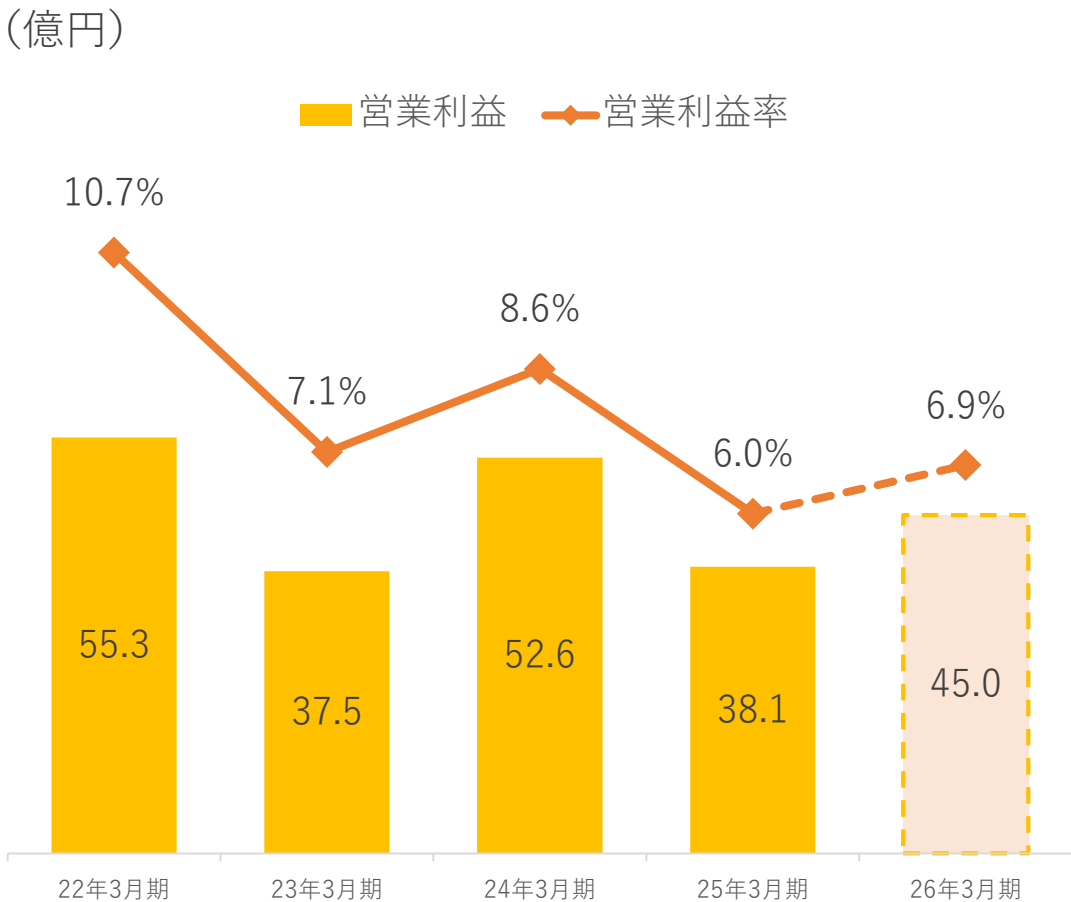
利 益

- ◎ 国内外の市場動向等を勘案し
つつ、適宜価格改定を実施。
- △ 研究開発費や賃金ベースアッ
プ等による経費が増加。

売上高

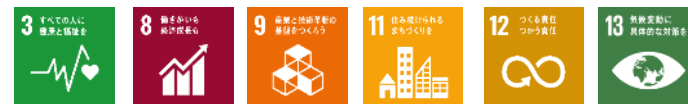


営業利益





サービス収益の確保



配送業者



- ☒ 再配達コストの低減
- ☒ 燃料消費の削減
- ☒ 環境負荷の低減

配達員



- ☒ 労働時間の短縮
- ☒ 待ち時間の削減

入居者



- ☒ 再配達の依頼なし
- ☒ 再配達コスト負担なし
- ☒ 受け取り時間の制約なし

サービスの方向性

宅配便以外の、さまざまな生活パートナーと連携し、
より魅力的なサービスへと展開を予定

将来の拡張性

ワンタイムパス

指定された日時に限り
ワンタイムパスを入力できる



クリーニング

店舗に行く習慣を
別の時間にあてられる



ネットスーパー

仕事後にスーパーへ
寄る必要がなくなる



皆さまの

「暮らしと働きかた」を


Pabbit が豊かにします



サービスの方向性

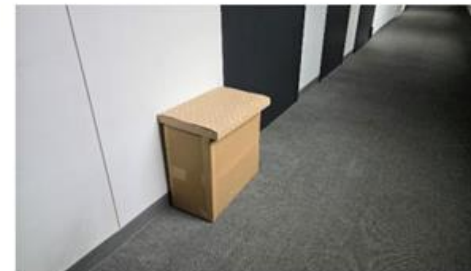
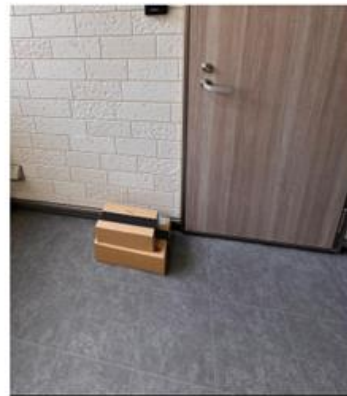
国土交通省「マンションにおける置き配の普及促進に向けた取組みのポイントについて」

消防法の規定に抵触するものではないと一般的に考えられる置き配の例

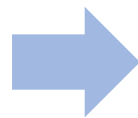
 国土交通省

別添2

- 消防法（昭和23年法律第186号）に基づき、廊下、階段、避難口等に避難上の支障となるような状態での宅配物の放置は禁止されている。
- 当該規定の適否については、個別の廊下、階段等の幅や形状等に応じて判断することになるが、例えば以下のように、宅配物などで避難の支障とならない少量又は小規模の私物を暫定的に置く場合は、当該規定に抵触するものではないと一般的に考えられる。



働きやすい、医療・介護現場をつくるために
みんなつながる、最もシンプルな解説策



毎日の忙しい医療・介護現場をつなぐ、
たった1つのアドレス帳



継続的な取り組み（CareRings Contact）

[背景]

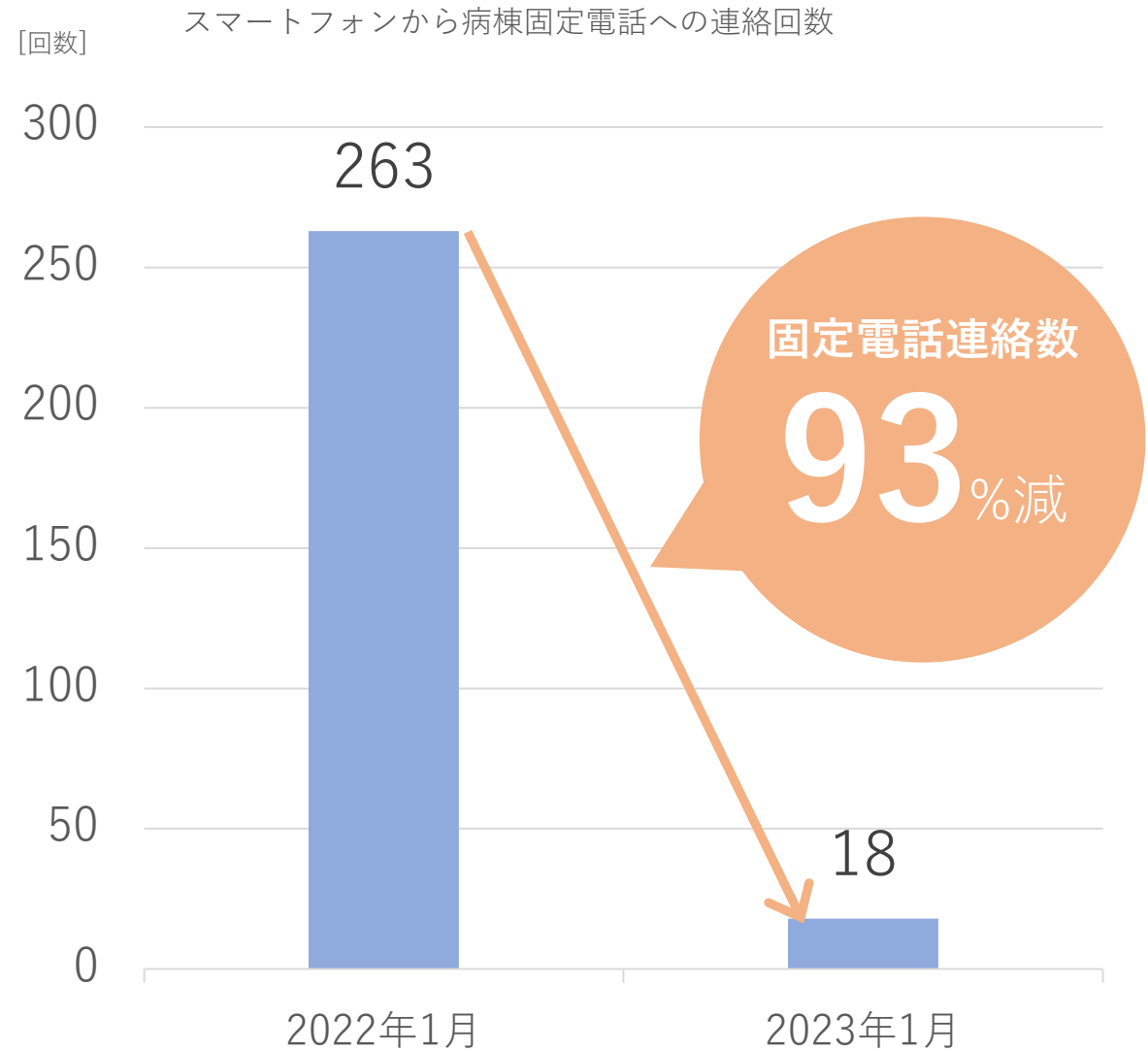
- ・医師の働き方改革（看護師の役割拡大）

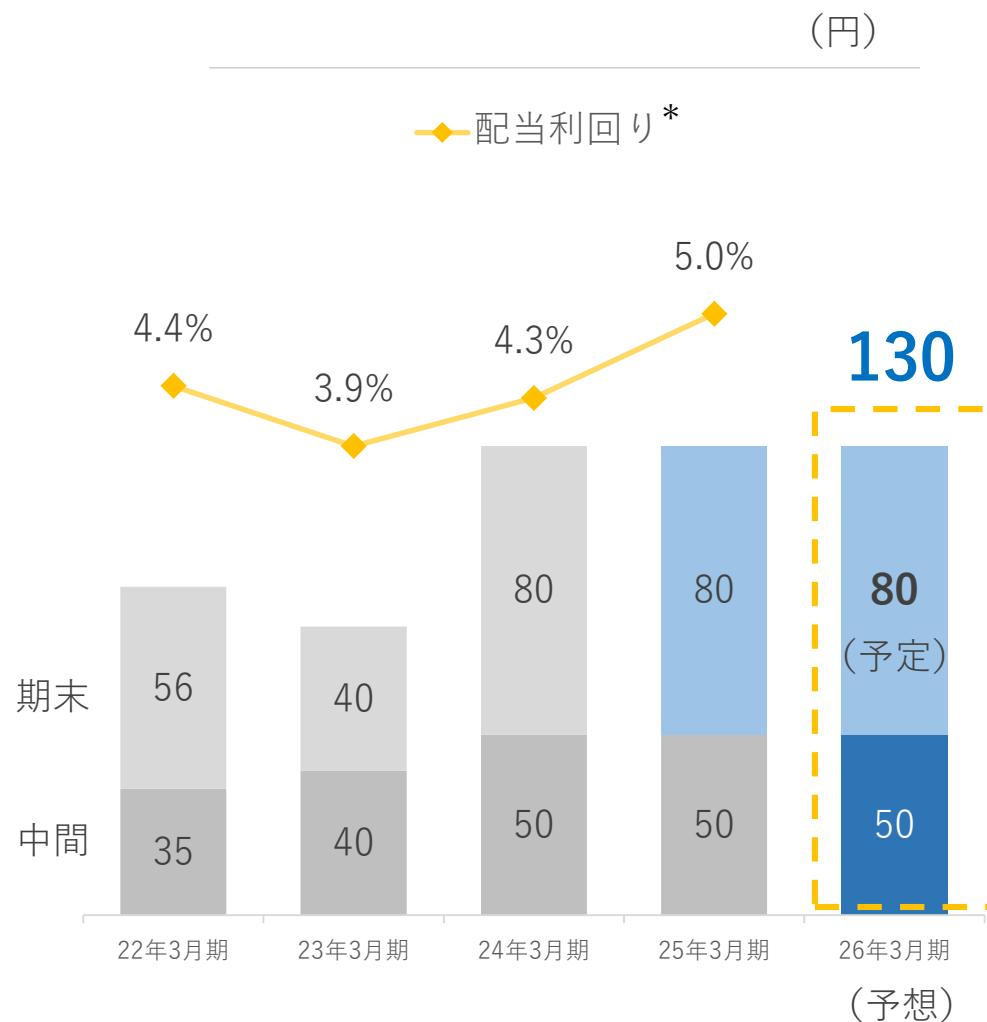
[課題]

医師と看護師のコミュニケーション機会が増加したが、
今、勤務中の特定行為ができる看護師が分からない



当日の勤務状況と属性情報がスマートフォンに表示される
ため誰でも簡単に直接呼出が可能（タスクシフトを支援）





* 各年度3月末時点の株価より算出

中期方針

基本方針である配当性向35%をベースに、年間で1株当たり80円を下限に配当することを念頭に、さらに3期累計で15億円程度の追加還元を実行。

年間配当

130円 (予想)

1株当たり年間配当金額100円に
中期方針による追加還元30円を加えた予想金額

本日の内容

01

2026年3月期 第2四半期（中間期）

決算ハイライト

02

2026年3月期

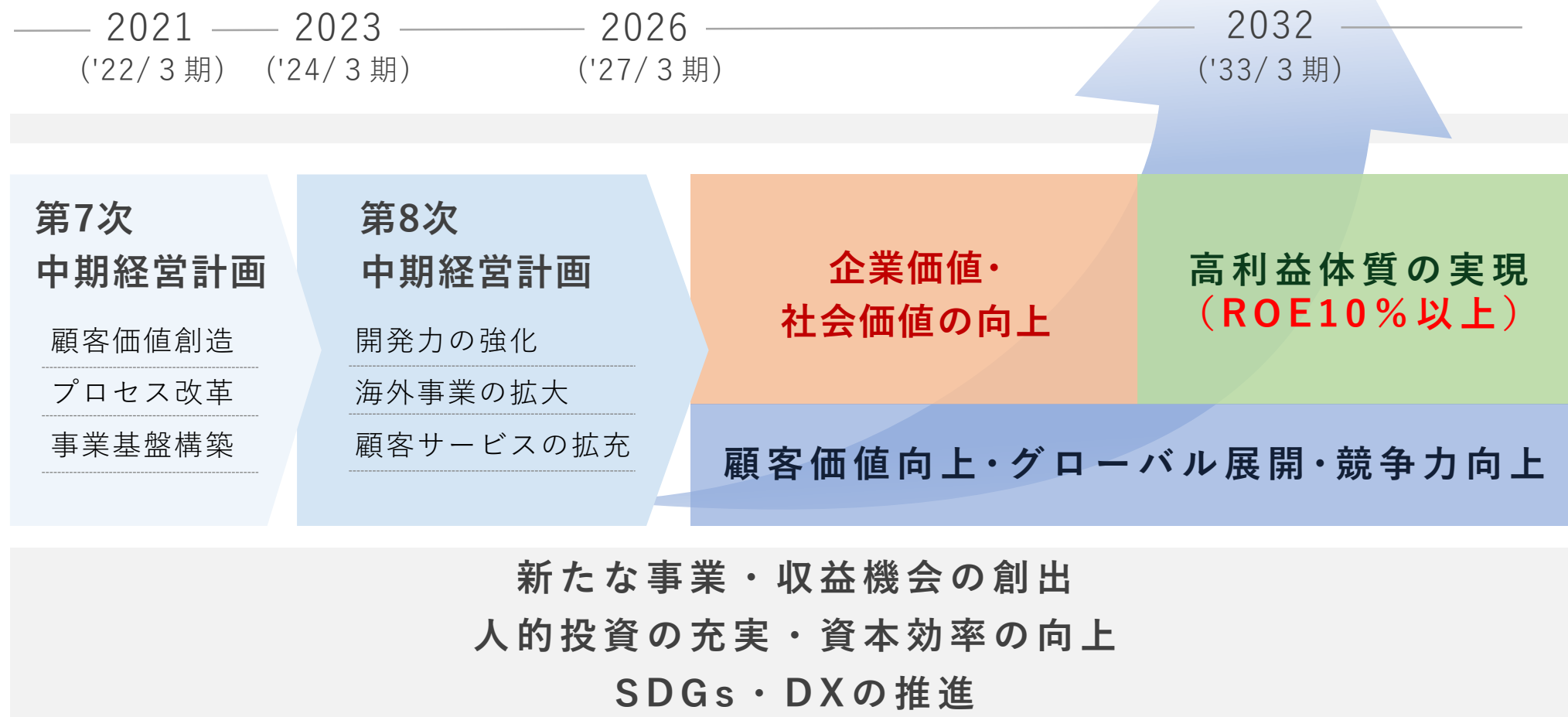
業績の見通し

03

AIPHONE Vision 2025

第8次中期経営計画の進捗状況

■ 高利益体質（ROE10%以上）の実現を目指す



顧客と社会の期待に応え、 発展し続ける企業体質をつくりあげる

直接的な顧客に加え、ESGやSDGsといった社会からの期待にも応えていきます。
また、本中計期間においては3年間での発展だけを目指すのではなく、
5年後、10年後も発展し続けられる強靱な企業体質をつくりあげていきます。

アイホンの企業価値・社会価値

市場への顧客価値の向上

国内顧客サービスの拡充

海外事業の拡大[3極体制化]

開発力の強化

SDGs推進

人材投資

DX推進

直近4年間でソフトウェア開発会社3社をM&Aにより完全子会社化

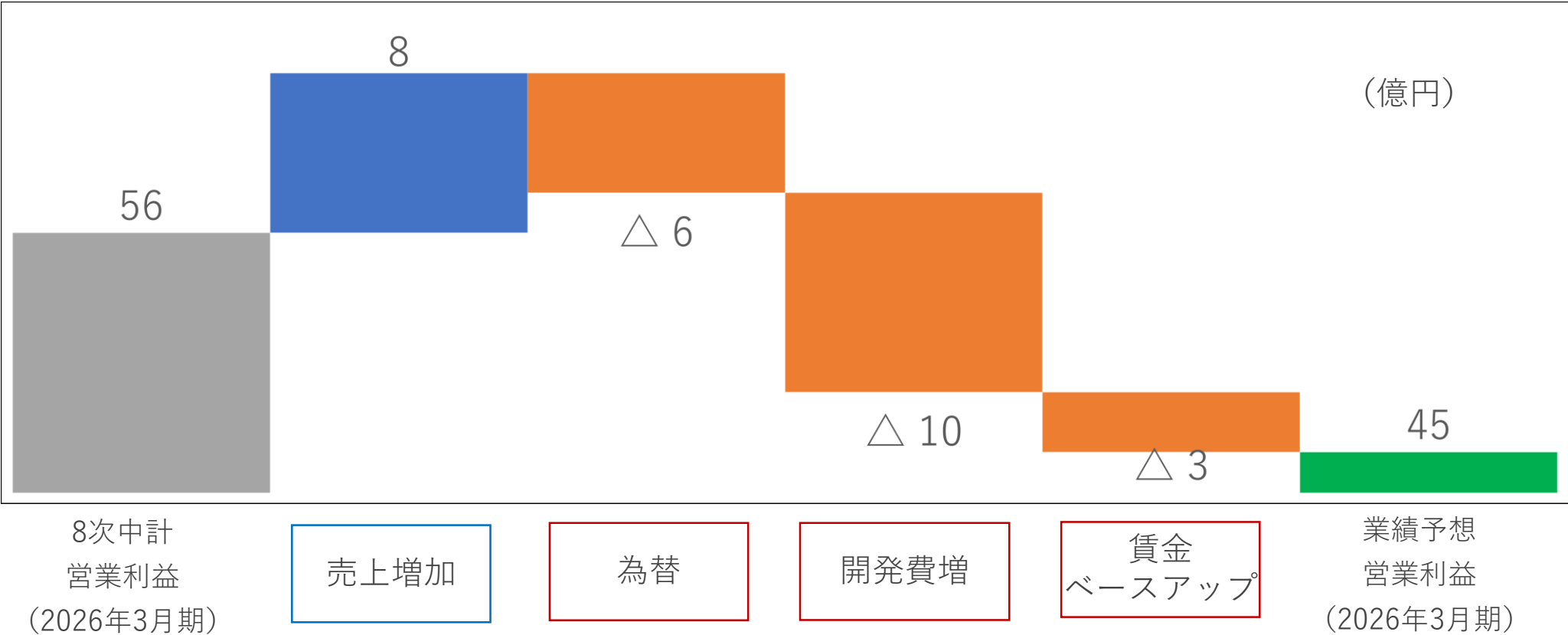


開発力を強化するためソフトウェア開発の子会社をM&A

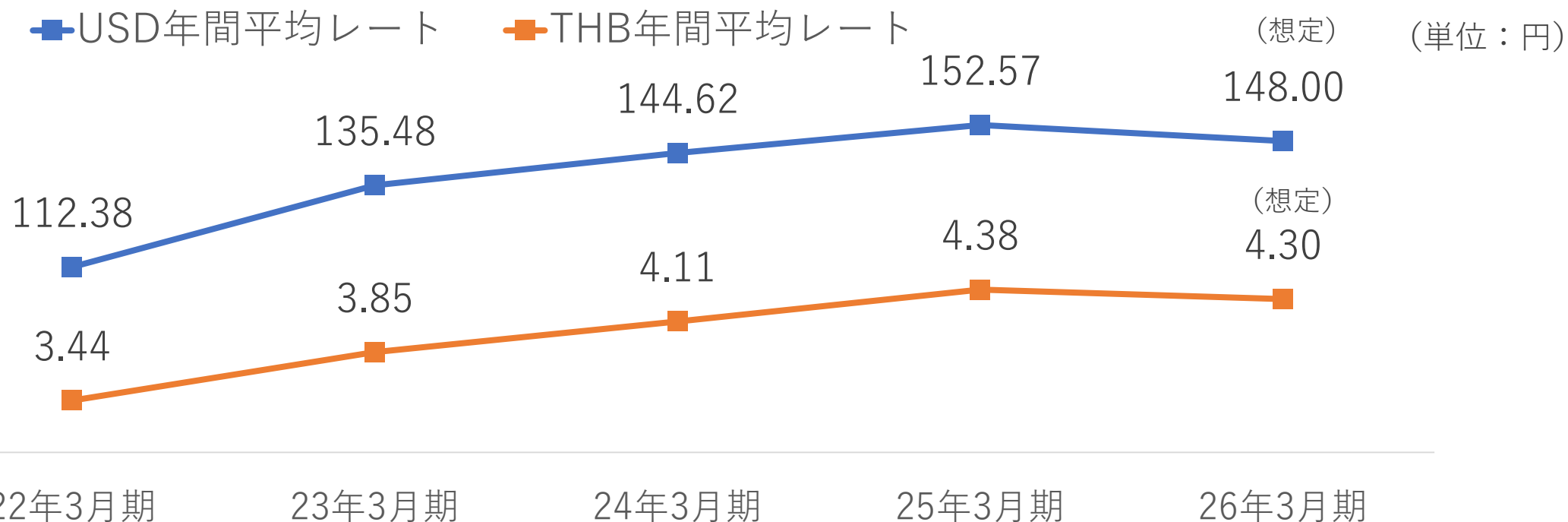
8次中計 最終年度目標

	2023年5月 当初目標	2024年5月 修正目標	2025年5月8日 業績予想
① 営業利益	48 億円	56 億円	45 億円
② 連結売上高 営業利益率	8.3 %	8.8 %	6.9 %
③ 連結売上高	575 億円	635 億円	654 億円
④ R O E	6.0 %	6.4 %	5.2 %

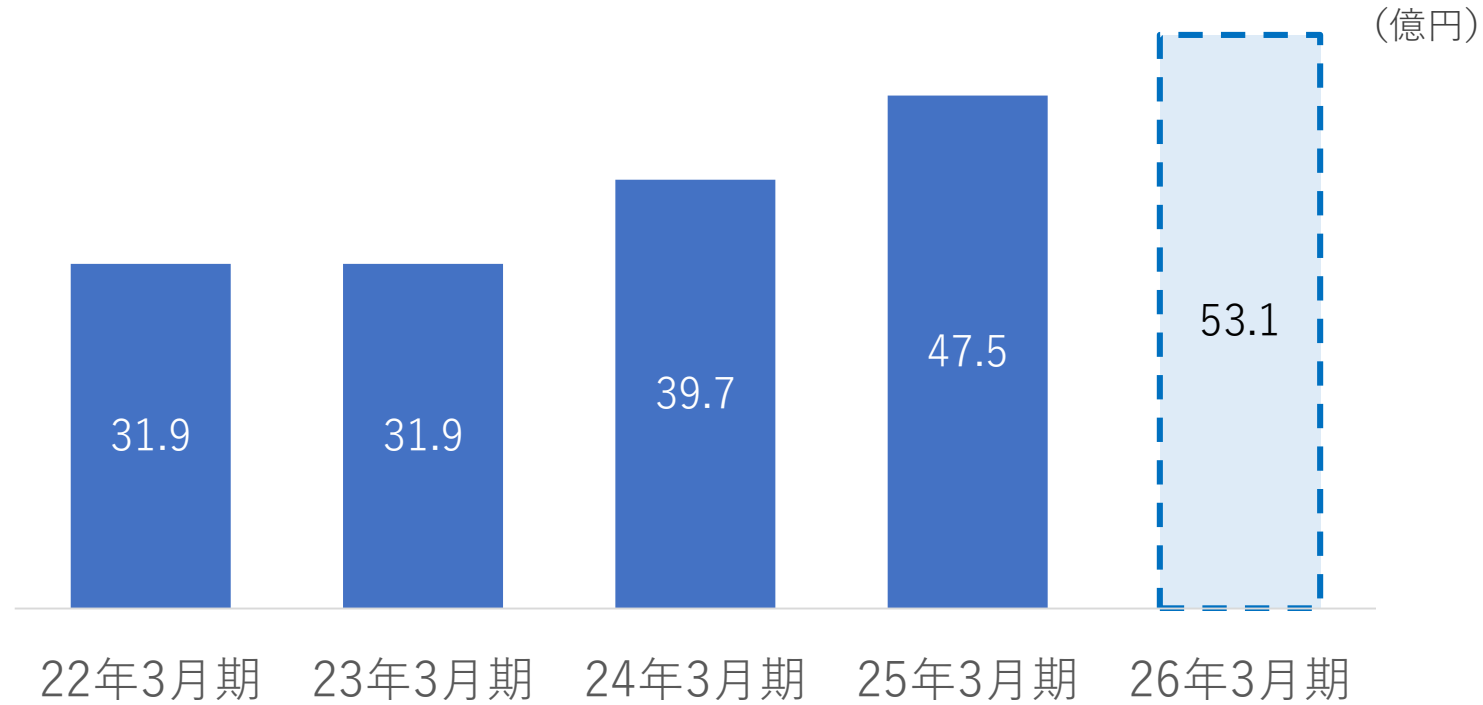
中期経計と次期業績予想の営業利益差異（2026年3月期）



- ◎ 売上高が大幅に増加し、売上総利益が大幅に増加
- △ 為替の影響や研究開発費の増加等による経費が大幅に増加



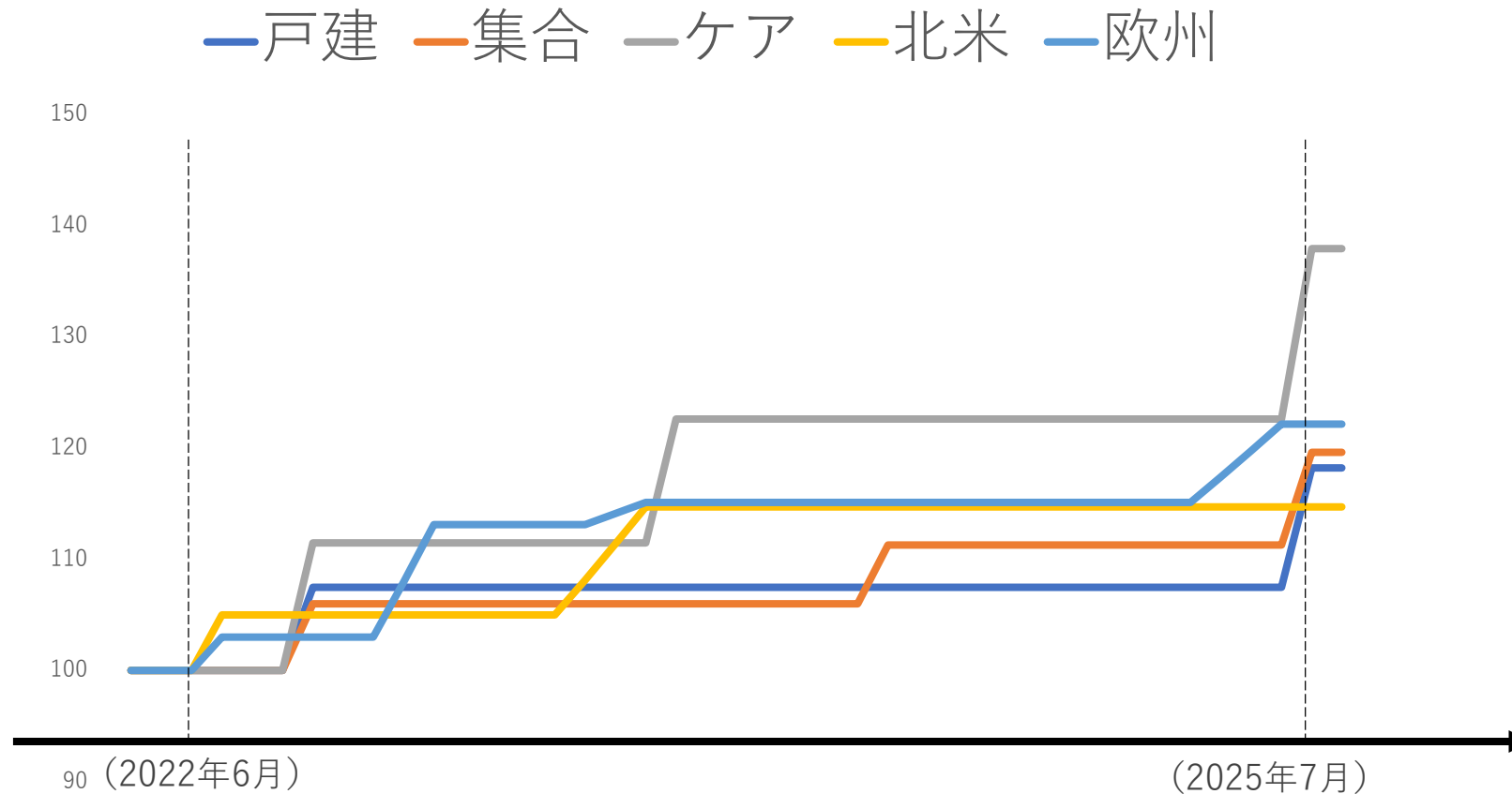
為替変動が当社に及ぼす影響はUSDやTHBに対しては円安になれば営業利益を押し下げる効果あり
 為替感応度は、1 USD 1円の円安に動くと営業利益2～3千万円減少、
 1THB0.01円の円安に動くと営業利益1～2千万円減少



研究開発費は増加傾向にある。

26年3月期は、大型開発案件が複数重なったため、研究開発コストが増加している。

2022年6月を基準（100）とした場合の、市場別の価格改定イメージ



2022年7月より各市場で価格改定を行っている。

2025年7月も価格改定を行った。



本資料に掲載されております業績予想や将来予想は、現時点において入手可能な情報に基づき弊社が判断して予想したものであり、実際の業績は今後様々な要因の変化により予想とは異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

アイホン株式会社

<https://www.aiphone.co.jp/ir/>

